

地図とデジタルサービスと情報の統一



KURODA International

黒田 毅

デジタルサービスとアイデア

地図の位置データとWEBアドレスをリンクさせ、地図上に情報サービスの表示を行うことを、そのフレームワークを整備して、事業化を提案する。

サービス概要: カーナビゲーションや、街を歩くときなど、利用環境でサービス環境を変化させ、音声認識における操作とともに、次世代におけるデジタルインフラやサービスとしてその基幹的な枠組みの提案を実現できると考えます。

要旨: これらサービスの枠組みとフレームワークの整備は、これらが基幹デジタルインフラとしての可能性を提案できるものであることにおいて、事業の確立を提案できるものと考えます。

詳細: これらはデジタル地図上に、多様な情報（映像データや音声データ）を表示することにおいて、そのサービスとフレームワークを提案することで、インターネットと同じ拡大を求めるものです。

これらは独自アプリケーションにおいて、カーナビゲーション、また街を歩くときにおける携帯の情報サービスを提供し、多様なデジタルサービスの拡大環境をフレームワークの構築において提案するものです。



アーリーステージからの拡大

これらは、新たなデジタルフレームワークとしてのサービスの提案を求められるものですが、内容を拡大することがサービスの構築を与えるものであるため、社会への認知の拡大をどのように求めるかが大きな課題です。

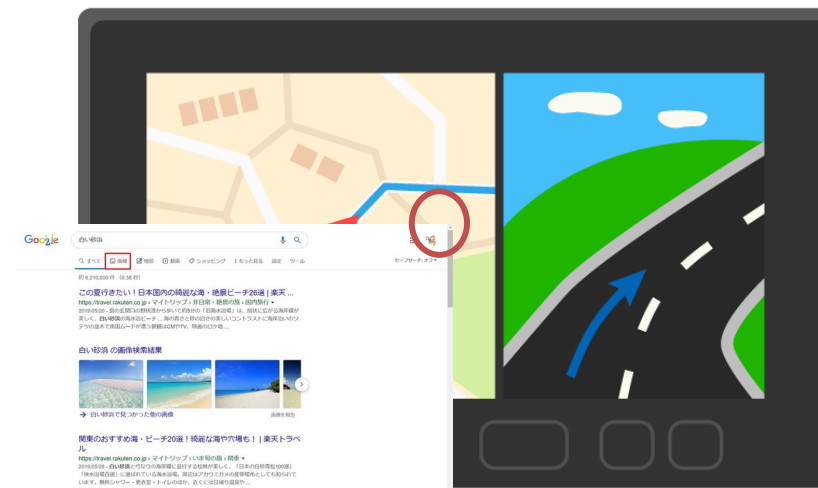
- これらは、オープンソースにおける参加を求める必要性が存在するものであり、フレームワークの構築とサービスの内容の構築を求めるとき、インターネットの拡大と同じ現実を要求するものであると考えます。
- これらは地方自治体などとの連携におけるサービスの確立が、最も有効であるかもしれません。またトヨタ自動車様のウーブン・シティなどでの採用は、そのサービスを次世代カーナビゲーションに限定せず提案できるものです。
- これらは次世代のカーナビゲーションが、情報の法事を自己とすることにおいて提供できるため、規格の制定とともにアイデアを提案できると考えます。



技術内容

これらは、WEB 3 におけるサービスの構築をそのフレームワークと規格において提案できると考えます。

- これらは地図上の各店舗などの情報データやチケットなどを表示することにおいて、そのサービスの小桂鵜を提案できるものです。
- これらは地図上を移動することにおいて個々の情報データを新たに表示することや、その選択における表示を提供するものです。
- 独立したウィンドウに情報やチケットを表示し、それらの作成を特定の規格において、WEB3の基準において提供することなどにおいてそれら環境を提案できると考えます。
- 次世代カーナビ基準とともに、そのクラウドデータを異なるアプリケーション環境において生活ユースとともに実現することは、新たなデジタルインフラとしての提案を実現できると考えます。



イメージ

市場と時代への対応

これらシステムの構築は、多様な将来的なサービスの拡大を予測し、システムの精密な開発を求められるものです。

デジタル社会における基幹インフラとしての規格とフレームワークの提案は、多様な可能性の実現の基盤として整備を行い、事業化と収益の確立を提案できると考えます。

これらはインターネットと同じ可能性を提案することは生活ユースの拡大とデジタル社会への移行において考えうる現実であると考えます。

これらは多様な連携や、オープンソースとしてのサービスの拡大などを提案できるものであり、それらは統一した規格の確立を求め、それらサービスの確立を提案するものです。

サービスイメージ

- 地図をナビゲーションとして、生活ユース、カーナビゲーションにおいて提案することは、多様な情報の表示環境とともに、そのサービスの構築を提案できると考える。これらはデジタル社会における基幹インフラとして、現状のインターネットに対して、新たなフレームワークを提案できると考える。これらはそのサービスの充実をフレームワークの開発とともに提案するものであり、それらサービスの向上における需要ははるかに大きく期待できると考える。
- これらシステムの完成度を最大限を求め、多様な可能性をサービスにおいて提案することは、時代基準と未来における可能性を枠組みの整備とともに提案できるものです。
- これらは映像や音声を表示することなどにおいて、既存2次元のナビゲーションを3次元に飛躍させるものであり、それらは新たな生活ツールとしての標準化を提案できると考えます。

新たなアイデアにおける未来の創造

競合と収益



現状においてアイデアの独自性は、競合を得るものではないため、競合はないと考えます。



収益の育成は、これらサービスが生活における必需品として求められるならば、大きな広告宣伝における需要を期待できるものと考えます。

チームに会う



Takeshi Kuroda

サマリー

新しいアーキテクチャーとともに、その生活におけるデジタルサービスとの新しい可能性を提案するものです。それら可能性が事業における現実として提案できる強みであり、先端システムにおける提案を実現できると考えます。

ありがとうございました

Takeshi Kuroda

090 (3760) 1882

judah@aol.jp

<https://kurodaint.org/>